

生物部の紹介

生物部は、植物研究部を前身として、平成28年度より発足しました。現在は3人の一年生が毎日活動しています。活動場所は主に温室ですが、学校敷地内の様々なフィールドを利用します。時々校外活動もします。基本的には、顧問から活動内容を与えたり、外部からの依頼を受けたりはしません。高校生としてふさわしい内容であれば顧問は協力します。部活は授業ではなく、あくまで生徒会活動です。自分たちで考えたことを試してみるのが一番です！

以下、顧問が部の概略を紹介します。(違っていたらごめんなさい)

I 5つの活動方針

- ・育てる
- ・勉強する
- ・研究する
- ・売る
- ・世のため人のためになることをする

部の発足時に考えていた方針です。部員が人として成長することこそが、この部の存在意義です。特に大切なことは5番目のこと。人から感謝され、自信を持つことの喜びを知ってほしいです。



II 4つの募集条件

- ・毎日できる人
- ・生物が好きな人
- ・いじわるしない人
- ・すごい自分になりたいと思っている人

発足時の募集要件はこの4つでした。生物の世話が必要なので、毎日できることが基本です。生物が好きかどうかは、生き物のためにお小遣いや遊ぶ時間を割くことができるかどうかでおおよそわかります。また、人にも生き物にもいじわるしない人は、良好な人間関係を作ることができます。そして、向上心。これがあるのとないのでは、伸び方が全然違います。部員は少数精鋭、一人で入部できる方の覚悟や勇気を歓迎します。「ぼっち」大歓迎です。生き物好き同士で、感動を共感し合える新しい仲間を作ってください。



Ⅲ Bio Diversity(バイオダイバーシティ)

「生物多様性」を今年のテーマにしました。農林高校には、学校としてはものすごく多くの生物が生息しています。フィールドミュージアムというのでしょうか。栽培植物から昆虫などの小動物、中には絶滅危惧種や、住宅街では見られない様な農業害獣など、意外な生物も息づいています。そういうものを育てたり、観察したりすることで、他の学校では得られないセンスを磨いてほしいと思います。ヒトも生き物の一種であるということや、生物もヒトも多様(Diversity)なんだという感覚。いろんな生き方がある。広い世界を見る目が身につくと思います。



Ⅳ 今年の部員の課題

「育てたことのない植物と動物を各自一種類ずつ繁殖させること。」これが顧問から部員に提案した課題です。

繁殖を目指すことで、その生物の一生(生活環)を見ることが出来ます。また、植物と動物では、環境に対する応答が異なりますが、両方を知ることによって生物の本質が見えてくるはず(たぶんね)。初めて育てる生物は、発見のおもしろさに気づかせてくれるでしょう。選ぶ生物は身近なものでOK。高いお金を出さなくても、生物は十分おもしろいのです。

【今年の取り組みの実際】

- ・動物(アメリカザリガニ、ニホンアマガエル、ヤモリ)
- ・植物(スイートコーン、スイカ、カボチャ)



Ⅴ 最近の話題

5月下旬現在、部で話題となっていることをいくつかあげておきます。

・カエルの雌雄

カエルの繁殖に取り組むためには、オスとメスを選んで採取したいところ。ニホンアマガエルの場合は鳴くのがオスで鳴かないのがメスだということらしいのですが、なかなか見分けがつかないというのが昨今の悩みです。松野ケロ松と名付けたけど、そもそもオスなのかメスなのか疑問です…。

・ケリの卵を見たい

学校の水田のあぜにケリが巣を作って抱卵しているらしいというので、卵を見ようと双眼鏡を持って接近を試みました。ところがケリの親鳥の警戒が強すぎて、10m以内くらいに近づいただけで飛んで威嚇してきます。そろそろ田植え祭りもあるのに、こんなに警戒が強くて大丈夫なのかな～。巣には4個くらい卵がありそうです。次は望遠鏡で観察にチャレンジかな。

・ザリガニの抜け殻

4月のことでしょうか。顧問が飼っているサワガニとモクズガニが同日に脱皮しました。半年ほど脱皮していなかったのが、偶然のことにびっくり。甲殻類は大潮のタイミングに合わせて脱皮をするのだとか。

ザリガニも脱皮をするのですが、抜け殻を自分たちで食べてしまうようで、せっかく拾って証拠に(戦利品に?)したいと思っているのになくなってしまうらしいです。また、拾いたての抜け殻は透明っぽいのに乾くとエビ色になるんだね～というのが発見です。

・金魚は病気？

元気にしていた4匹の金魚のうち、2匹が突然水槽の底でじっとしている。よく見ると白いカビのようなものが体についていました。きっと病気だと思い、その二匹だけバケツに移し替えて治療薬を入れておきました。翌日バケツを見ると、ちょっと汚れて見えたのですぐに水替えをしたところ、バケツの底に直径1mmくらいの小さな粒がびっしり。一瞬寒気がするほど多かったそれはどうやら金魚の卵のようでした。元気がなかったのは産卵前だったからなのか、それとも本当に病気で、たまたま薬液が刺激となって産卵したのか。因果はよくわかりませんが、卵から金魚を育てるチャンスです♪